

ドレーン・チューブ管理について

1. 予測されるエラー

- ① 誤注入
- ② 誤接続
- ③ 接続部のはずれ・抜去
- ④ 脱落・迷入
- ⑤ 逆流
- ⑥ 未開通
- ⑦ 捻れ・屈曲・圧迫
- ⑧ 抜去不能

2. 実施

- 1) ドレーン・チューブ類を挿入する場合には患者等に必要性を説明
- 2) 留置されたドレーン・チューブ類の種類、本数、使用目的、原理、仕組み、操作方法を理解しておく
- 3) ドレーン・チューブ類の形状、挿入部位、挿入されている長さ、器具・機器を使用する場合は意図をしっておく
- 4) ドレーン・チューブ類が複数挿入されている場合は、判りやすいようにラインを整理し、誤注入防止のための表示等を行う
- 5) 排液の色・性状・量を定期的に観察する
- 6) ドレーン・チューブが屈曲しないようにゆとりをもさせ、しっかり固定する
- 7) ドレーン・チューブ類の固定位置、過度の緩み、固定テープの剥がれ、排液の漏れなどを各勤務帯で確認をする
- 8) 排液バッグ類は挿入部より低い位置になるようにする
- 9) ドレーン・チューブ類より薬剤注入や洗浄を行う場合は、処置実施直前にドレーン・チューブ類を挿入先までたどって確認する
- 10) 処置・検査後や患者移動時、ケア、体位変換時には医療者は互いに声をかけ、ドレーンバッグの位置の確認や、開放忘れ等がないか、ドレーン・チューブ類をたどって確認をする
- 11) 患者の状態を評価し、観察の強化や適切な対応を行う
- 12) 患者に、日々の行動で予測される事柄（捻れ、屈曲、圧迫等）を具体的に説明し、協力を得る

3. 異常時や事故等を発見した場合には、患者の安全を確保し、直ちに医師に報告をし、速やかに処置を行う